

産経新聞

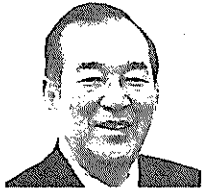
中東と東アジアで、政治力学の大きな変動が起きている。中東では、領域支配の主体としてイスラム国(IS)が消滅し、シリア戦争の事実上の終結に伴い、トルコとイスラエル、

この石油関連施設への攻撃は、アラブの盟主たる同国の権威失墜だけでなく、湾岸諸国を含めたアラブの力の低下をまざまざと見せつけた。また、原油価格の変動や湾岸安全保障の不安定

り、イデオロギーや「強烈な思い込み」による友好や敵意に影響されるものではない。トルコはかつて、「隣国との問題ゼロ外交」といった修辭過剰な友好に満足するきらいもあったが、EUとアラブ、イスラエル、イ

歴史の交差点

武蔵野大特任教授 山内昌之



イランの3国が国際政治の決定要因として台頭してきた。イエメンの武装組織フシ派あるいはそれを支援するイランにつながる分子による、サウジアラビアの国営石油会社サウジアラム

の石油関連施設への攻撃は、アラブの盟主たる同国の権威失墜だけでなく、湾岸諸国を含めたアラブの力の低下をまざまざと見せつけた。また、原油価格の変動や湾岸安全保障の不安定

り、イデオロギーや「強烈な思い込み」による友好や敵意に影響されるものではない。トルコはかつて、「隣国との問題ゼロ外交」といった修辭過剰な友好に満足するきらいもあったが、EUとアラブ、イスラエル、イ

尊敬すべき孤独と文氏

国益意識が過剰な大統領と見なされがちなプーチン氏とエルドアン氏には「尊敬すべき孤独」ともいえるたまたまいがあ

国益意識が過剰な大統領と見なされがちなプーチン氏とエルドアン氏には「尊敬すべき孤独」ともいえるたまたまいがあ

見なすなら、日米韓の安全保障